



ひびき

Letter of the M.Y. elementary school

南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.313
令和 4年度 5月号
令和 4年 4月 28日

「あいさつ」とは

校長 鈴木 智彦

風薫るすがすがしい季節となりました。先日行われた1年生を迎える会では、緊張して入場してくる1年生を、上級生のお兄さん、お姉さんたちが温かい拍手で迎えてくれました。交流学年での顔合わせ（仲良し集会）も終わり、それぞれの令和4年度が動き出しています。

朝、日替わりで正門と神無門に立って登校時の子どもたちとあいさつを交わしています。天気にかかわらず、元気に、丁寧に、上品に…等、それぞれのやり方で交わしてくれる子どもたちのあいさつが、日々の活力になります。

始業式の翌週からは、校門のところに数名の高学年児童が並んであいさつを始めました。「おはようございます!」「おはようございます!」と。

「どうしたの?」と声をかけると、「ふれあいボランティアです。」と教えてくれました。ふれあいボランティア委員会の活動の一環として、毎日、自分たちからあいさつをすることにしたそうです。委員だけでなく、自主的に「ボランティアのボランティア。」と言って、列に加わる子も現れました。

登校の波が引いたところで「どう?」と感想を聞いてみました。すると早速、

- ・あいさつをしてくれる人と、してくれない人がいる
- ・校長先生にあいさつをしても、自分たちにはしてくれない人がいる
- ・同じあいさつでも、こちらのあいさつに返してくれたものより、先にしてくれたあいさつの方が、気持ちがいい

など、いくつかの課題が上がったので、「そこを委員会で話し合ってみたら?」と伝えました。

なぜ、あいさつをするのでしょうか?

ふれあいボランティア委員の子どもたちは「あいさつをすると、お互い気持ちがいいから」と答えました。それは、強制されて仕方なくしているのではなく、自分たちから実践しようとしているからこそ感じられる感想だと思います。

『あいさつ』は、お互いの関係性を高めるとても効果的なツールです。『あいさつ』をすることが目的ではなく、『あいさつ』の先にある、お互いのより良い関係性を目指して、日々、臨もうと考えています。